



〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町11番9号
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F)

財団概要 2015

FOUNDATION PROFILE 2015

FOUNDATION PROFILE 2015

<http://www.kasen.or.jp/>



THE RIVER FOUNDATION



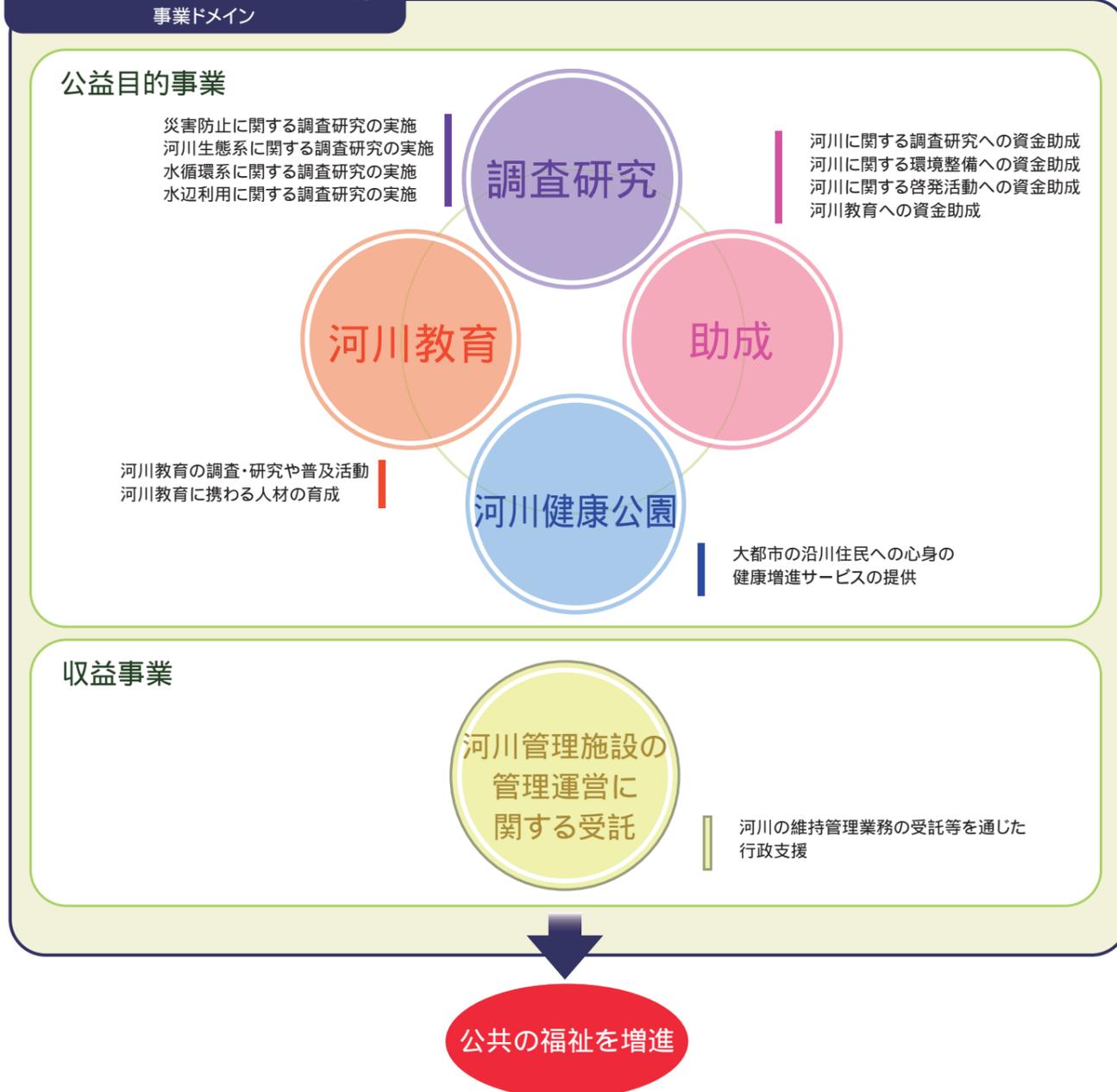
河川財団は、5つの事業を通じて社会に貢献します。

● 調査研究 ● 助成 ● 河川教育 ● 河川健康公園 ● 河川管理施設の管理運営に関する受託

Our Mission

河川財団は、河川に関する調査・研究及び環境整備並びに河川への理解を深めるための活動に対する助成並びにその実施を行うことにより、国土の利用、整備又は保全及び国民の心身の健全な発達を促進し、公共の福祉を増進することを目的としています。

Our Business Domains 事業ドメイン



河川財団は、公益財団法人として平成26年度から取り組んでいく事業に関する新しい指針「中期ビジョン2014」を策定しました。

河川財団が今まで蓄積してきた人的、知的資産を活用しながら、近年の激甚な河川災害の頻発など外部環境の変化や、公益法人への移行に伴う内部環境の変化などを踏まえ、平成26年度から28年度にかけて3か年における活動戦略をまとめたものです。

1 川の安全・安心を支えます

河川に関わる調査研究・啓発活動・河川教育等への助成や人材育成を通じて、川に関する活動を支え、河川の管理や利用に貢献します。

2 河川政策のシンクタンクを目指します

品質の高い調査研究の実施を通じて、創造的な解決策を提示する河川政策のシンクタンクを目指し、河川の安全・安心を高めることに貢献します。

3 川に親しみ、健康増進に貢献します

河川健康公園でのスポーツによる利活用を推進し、人々の心身の健全育成や健康増進に貢献します。

基本の方針

調査研究事業

社会的要請や河川政策において提案されているテーマに重点
維持管理技術の体系化、基準化、人材育成やデータベースの構築等を含む戦略的維持管理システムの構築や河川管理の現場における懸案事項ソリューション支援業務などを推進

助成事業

幅広い助成の継続に加え、河川行政にとって重要な課題を研究テーマとして資源を集中し問題を解決
助成を支える河川整備基金のあり方について検討

河川教育事業

学校教育への河川教育の導入・定着に向け、文部科学省や教育関係者との連携を強化
「水教育ガイドライン」の充実と、それに基づくカリキュラム、教材を開発

河川健康公園事業

サービスの向上、利用メニューの充実により、高い顧客
子ども達へのスポーツ普及活動、河川適正利用や洪水時対応の普及啓発を推進

河川管理施設の管理運営に関する受託事業

- 施設の的確な管理の実施と、河川利用者の安全安心な利用を確保
- 財団が蓄積したノウハウを活かせる新たな社会のニーズに対応した分野を開拓

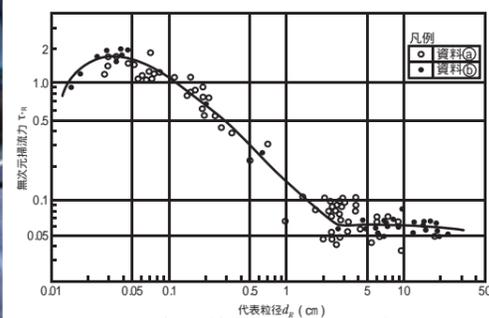
戦略的な維持管理の調査・研究を推進

財団の特色

河川維持管理の管理水準や効果的・効率的なサイクル型維持管理の研究を進め、持続可能な河川管理のあり方に関する知見を蓄積
河道改修などの人為的インパクトに対する河道の応答に関する自主研究などを踏まえた、河川整備計画や総合土砂管理などの調査研究成果を蓄積

近年の主な自主研究

流量変動と流送土砂量の変化が沖積河川生態系に及ぼす影響とその緩和技術に関する研究(H22～)
河川管理施設における維持管理目標(値)の考え方について(H23)
地震により被災(応急復旧後)した河川管理施設の監視・点検のあり方について(H23)
河川管理と地域の防災コミュニティの連携強化による減災を目指した実態調査研究(H25)



日本の沖積河川の d_R と T_c の関係
出典：沖積平野 山本晃一著

財団の人材やノウハウを活かし、4つの分野で、河川に関する調査研究を行うとともに、その成果を広く社会に公表し、還元を行います。

4つの分野の調査研究

災害を防止するための調査・研究

「戦略的な維持管理」を進める中、維持管理システムの体系化、河道変化に順応的に対応する河道管理技術、行政や地域住民を含めた河川管理の枠組みなど河川災害を防止するための技術や制度に関する調査研究

健全な河川生態系の保全・再生に関する調査・研究

高水敷の樹林化、外来植物の繁茂、治水安全度の低下、在来種の植生の変化、生物への影響など様々な課題を抱える河川生態系を健全に保全・再生することを目指して、堤防植生、河川維持管理等の調査研究

健全な水循環の保全・再生に関する調査・研究

水質が悪化している湖沼等の閉鎖系水域などにおける水環境を健全化するため、水循環系の保全・再生について調査研究

良好な水辺利用を促進するための調査・研究

河川環境の保全と河川利用の促進とが調和した、人と河川が共生する社会とするため、空間管理のあり方、利用ルールづくりや地域住民・NPO等との協働等について調査・研究

成果の公表・普及

- 河川総合研究所報告(平成7年から毎年刊行)
河川総合研究所及び各地方事務所の毎年度の主要研究成果を論文としてまとめたもので河川環境管理に関する様々なテーマの中から、毎年10編程度の論文を掲載
- 河川総合研究所報告調査研究概要集(平成23年から刊行)
前年度実施した自主研究及び受託業務に係る調査研究を網羅した調査研究の概要集
- 河川総合研究所資料(平成7年から不定期刊行)
河川環境管理等に関する国内の重要な研究テーマや海外調査結果などの知識や情報の技術的蓄積を資料としてとりまとめているもの
- 河川財団研究発表会(平成15年から毎年開催)
毎年7月頃開催し、河川総合研究所報告にとりまとめる主要研究成果の発表

上記の論文集などは、国立国会図書館に納本するほか、大学等の研究機関、国・都道府県の河川関係機関に配布しています。なお、平成24年度までの論文集は、河川総合研究所の旧名「河川環境総合研究所」名義で発刊されました。

当財団のWEBサイトから閲覧・ダウンロードが可能です。
河川財団ホームページ > 調査・研究 > 調査研究報告書
http://www.kasen.or.jp/c_study/study02.html

戦略的な維持管理

俯瞰的・総合的な河川の維持管理の強化

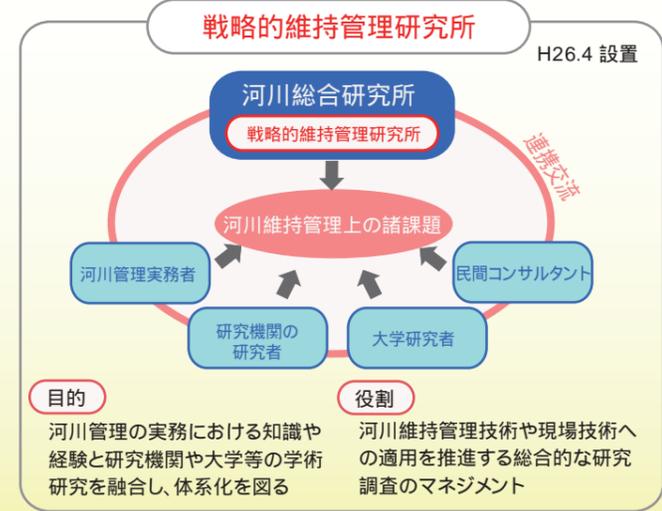
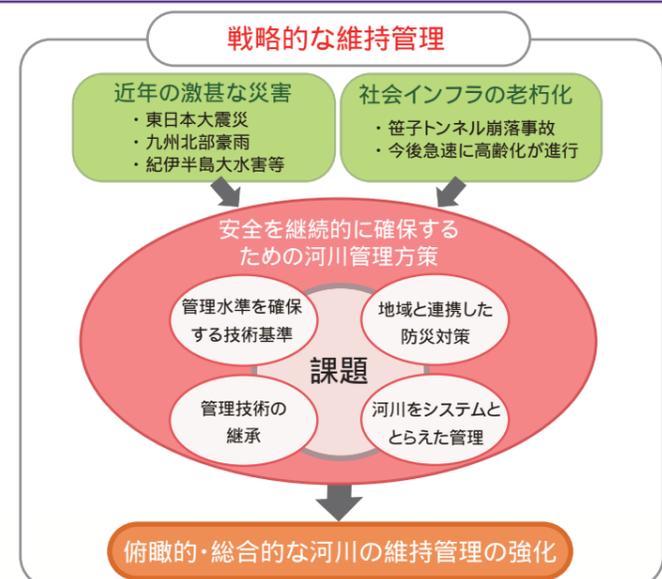
東日本大震災による甚大な被害にとどまらず、近年頻発する豪雨災害により全国で激甚な水害が発生しています。

このような大規模な災害の頻発に対し、引き続き堤防の整備等による治水の向上を図ることが一層重要になっています。さらに、社会インフラの老朽化が懸念される中、河川においてもその特性に即しつつ、既存の施設を適切かつ効果的・効率的に維持管理・更新していかねばなりません。

上記のような社会情勢を踏まえ、河川政策において、安全を継続的に確保するための河川管理方針が問われ、管理水準を確保する技術基準、管理技術の継承、自然公物である河川をシステムとしてとらえられた管理、地域と連携した防災対策などが課題としてあげられました。

河川管理の強化にあたっては広範な研究分野が関わること、現場と研究との緊密な連携や現場での経験を重視しつつ全体を俯瞰し取り組む必要があることから、当財団では俯瞰的・総合的な河川の維持管理の強化を『戦略的河川管理』と位置づけ、自主研究や受託事業によりこれを推進します。

また、戦略的維持管理に関する調査研究を推進するため、河川総合研究所に戦略的維持管理研究所を設置し、関係者との連携交流を図りながら、河川維持管理上の諸課題の解決にアプローチします。

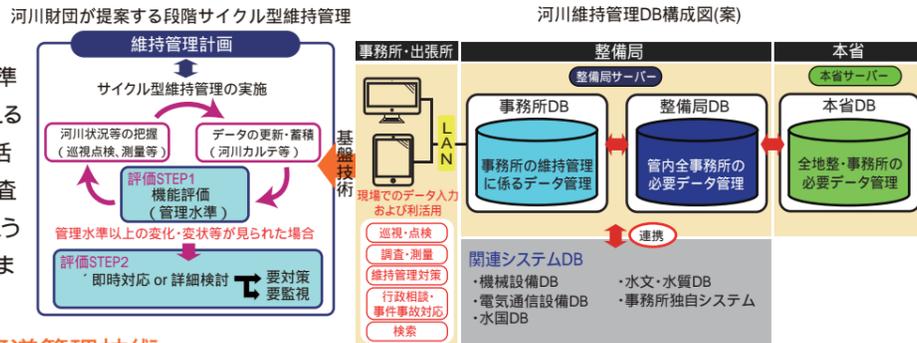


目的
河川管理の実務における知識や経験と研究機関や大学等の学術研究を融合し、体系化を図る

役割
河川維持管理技術や現場技術への適用を推進する総合的な研究調査のマネジメント

維持管理システムの体系化

維持管理を支える技術の体系化やその標準化について、また、維持管理のPDCAを支える情報データベースの構築やそのデータを活用した状態や健全性評価技術について調査研究を行っています。現場の維持管理を担う人材育成の方策について検討を進めています。



河道変化に順応的に対処する河道管理技術

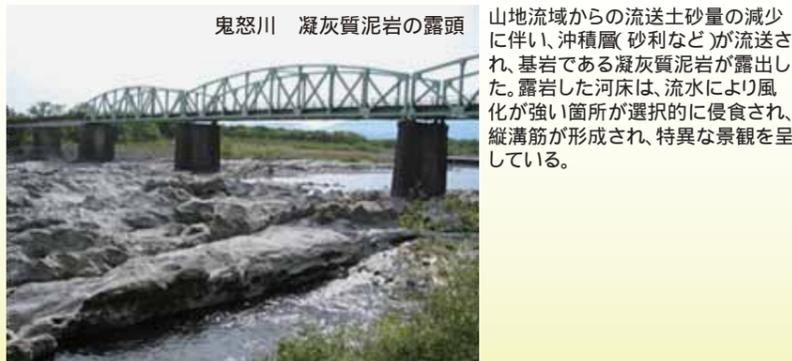
河道(河床)の物理的变化により生じる影響に対し、その実態把握、管理上の課題、対処技術に関する調査・研究を行っています。

懸案事項ソリューション支援

歴史的経緯・社会的情勢・財源・河川環境上などの理由により解決が困難な課題に対して、河川管理者が解決に向けた道筋を見出すことを支援しています。

河川管理制度

河川を健全かつ持続的に管理していくため、国、地方公共団体、地域住民の役割分担のあり方、地域住民の維持管理等への参画に関する調査・研究を行っています。



健全な河川生態系の保全・再生に関する調査・研究

健全な河川生態系での持続的な河川管理を目指し、生物多様性の保全や生物特性を考慮した河川管理に関する研究に取り組んでいます。

財団の特色

長年にわたる堤防植生の除草や集草方法の実験、外来種、花粉症やモグラ対策など、堤防除草や堤防植生管理に関する知見を蓄積
河川管理業務に長年携わってきた実績を有し、高水敷の樹林化や外来種の繁茂など河川管理上の課題に精通
全国の河川環境管理基本計画や自然再生計画の策定に携わった実績と、自主研究などによる河川環境管理に関する研究成果を活かした河川空間管理のあり方や河川生態系のあり方に関する知見を蓄積



近年の主な自主研究

河川堤防および周辺域における生態緑化技術の開発(EFGT研究会 X H21~H26)
河川堤防において耐侵食性に優れるチガヤを主体とした在来植生を優占させ、生物多様性を有する緑地空間を効率的に創出する生態緑化技術(Eco-Friendly Green Technology)の開発を行う。



河川の本来機能維持のための河川特性、除草コスト、花粉症対策、植物成長調整剤・芝焼きの適用を考慮した植生管理手法の確立に関する研究(H22~)
鶴殿ヨシ原の切り下げ対策効果について
~淀川におけるヨシ原再生実験~(H23~)



健全な水循環系の保全・再生に関する調査・研究

水質が悪化している湖沼等の閉鎖系水域などにおける水環境を健全化するための調査研究を推進

財団の特色

自主研究、受託研究を通じ、従来から流域対策だけではなく、物質循環や生態系の作用といった新たな湖沼の水質改善対策に関する知見を蓄積
「今後の河川水質管理の指標について(案)」を作成するなど、BODなどによる従来からの水質管理のみならず、新しい水質管理の考え方にも精通
「河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル(案)」、「内分泌かく乱化学物質調査の考え方(案)」の作成や改定に携わり、微量化学物質に関する知識に精通

近年の主な自主研究

微量化学物質に関する研究(H20~H22)
湖沼環境改善に関する研究(H21~H22)
物質循環と生態系に着目した湖沼水質管理に関する研究(H22~)



良好な水辺利用を促進するための調査・研究

河川環境の保全と河川利用の促進とが調和した、人と河川が共生する社会とするため、空間管理のあり方、利用ルールづくりや地域住民・NPOとの協働などに関する調査・研究を推進

河川における水面利用

河川における水面は、漁業やプレジャーボート、水上バイク、ウインドサーフィン等、多様な形態の利用がなされています。一方で、水面利用マナーの悪化や不法に係留している船舶が見受けられます。



より良い水面・水際利用に向けた利用の適正化が必要

財団の特色

全国の水面利用計画や不法係留船対策に係る調査業務を実施してきており、これらに関するノウハウを蓄積
基金助成事業やプロジェクトW E T等の活動を通じた全国のNPOや地域住民団体等との人的ネットワークを構築

近年の主な自主研究

船舶等の不法係留対策に関する研究(H22~H25)



助成事業

Funding

河川整備基金事業
河川美化・緑化事業



河川整備基金の果実や(公社)ゴルフ緑化促進会からの交付金により、助成事業を行っています。

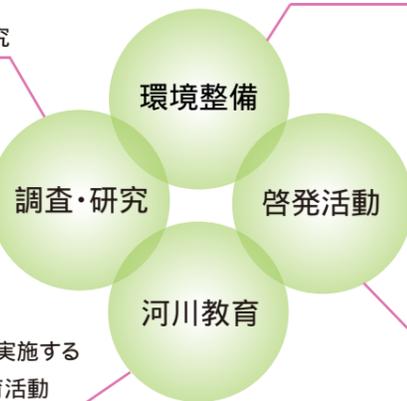
河川整備基金事業

多方面の協力により造成され、河川などの整備・利用及び河川環境に関する調査・研究、河川に係わる啓発活動、河川教育を支援しています。

河川整備基金が助成する4つの事業

自然科学、人文科学、社会科学といった幅広い学問領域における河川の整備及び保全並びに利用の促進に関する調査・研究

地方公共団体や各種法人等が実施する、水辺の環境の向上や利用者の利便向上に寄与する施設の整備

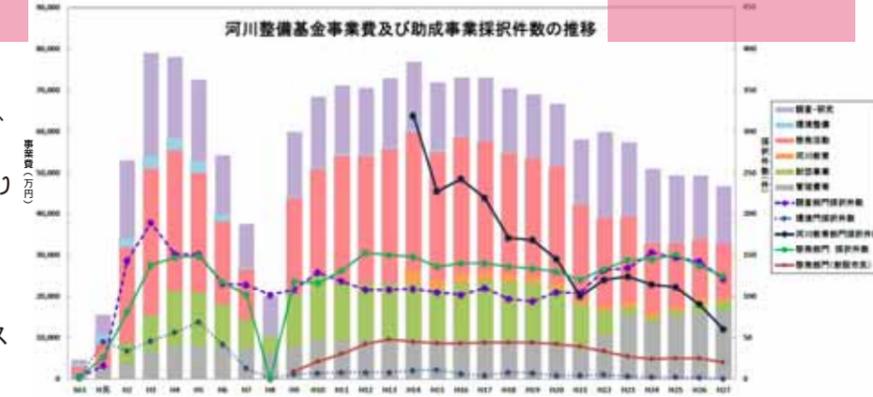


小中高等学校等が実施する河川を活かした教育活動

地方公共団体、各種法人、団体等が行う河川への国民の理解を深める運動など

河川整備基金とは

河川整備基金は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の閣議了解に基づき昭和63年に設立され、国民各層、企業等が資金を拠出(寄付)して造成されました。基金の運用益から、安全で良好な"河川環境"を目指して、よりよい"川づくり"に役立つ様々な活動に支援を行うことにより、わが国の河川整備の効率的推進に寄与することを目的としています。これまでに約283億円が造成され、約9,800件、約112億円の助成を行っており、基金の資産総額は国内でベスト20、年間助成等事業費はベスト40に入っています。



調査・研究

大学の研究者等が行う、国・地方公共団体の河川整備事業等の効果的・効率的推進に寄与するような調査・研究に対し、助成を行っています。

【助成対象研究事例】



アユの遡上試験
パイプ魚道設置状況
パイプ魚道の水理機能と現地設置法に関する研究
西日本工業大学工学部 総合システム工学科
赤司 信義 教授

H27年度: 121件(1億3982万円)

啓発活動

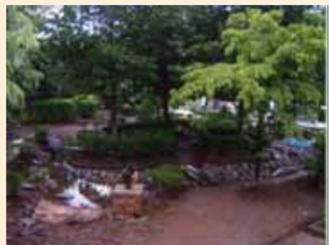
地方公共団体、各種法人、団体などが実施する、河川・ダムなどへの国民の理解を深める活動に対し、助成を行っています。



H27年度: 144件(1億3173万円)

環境整備

地方公共団体や各種法人等が実施する、水辺の環境の向上や利用者の利便性向上に寄与する施設などで積極的な創意工夫による地域の特徴を活かしたアピール度の高いものの整備に対し、助成を行います。



木立が鬱蒼として人が寄りつかなくなった旧河川敷に整備された水辺公園「境川・鶴間せせらぎ広場」

H27年度: 0件

河川教育

小中高等学校等の総合的な学習の時間等における河川を題材とした活動についての調査・研究及び活動に対し、助成を行います。



H27年度: 60件(845万円)

助成成果の普及

研究成果表彰

過去3年間に提出された調査・研究部門の報告の中で「河川、ダムに関する学術及び技術の進歩を通して、河川、ダム事業やそれを取りまく社会に対して卓越した功績が認められる学術貢献成果及び技術開発成果」を上げた助成研究者を表彰しています。

成果発表

助成の成果は、「河川整備基金助成事業成果発表会」や「川に学ぶ全国事例発表会」、「河川教育研究交流会」で報告しています。また、優秀成果に対し、表彰を行っています。



河川美化緑化事業

「公益社団法人ゴルフ緑化促進会(Greenery by Golf Group:G.G.G)」と連携して、河川やその近傍での植樹等に対して助成を行っています。

G.G.Gは、協力会員ゴルフ場でプレイするゴルファーから緑化協力金(1人1日50円)の寄付を受け、緑化事業に取り組んでおり、地方緑化事業として学校等の公共施設、河川、国立公園の植樹、環境美化緑化を行っています。これまでに醸金いただいた緑化協力金は、累計101億9,636万円(平成24年度まで)延べ2億393万人に相当する方々にご協力いただいています。

河川敷のゴルフ場からの緑化協力金の一部については、当財団に配分され、寄付をいただいた河川敷ゴルフ場が所在する水系で、国、地方公共団体、公益法人・水防団体などが行う美化緑化事業に助成しています。



H27年度: 9件(1497万円)



優れた学習の場である川での体験活動を通じて、命の尊さ、自然の大切さ等を学ぶ様々な活動の支援等を行っています。

財団の特色

活動支援

◆当財団内に設置している「**子どもの水辺サポートセンター**」による支援や河川整備基金による助成を通じて河川教育活動に関する知見を蓄積しているとともに全国のNPO・市民団体等や教育関係者などの人的ネットワークを構築

プロジェクトWETによる河川教育の普及

◆世界66以上の国と地域で普及が行われている「**プロジェクトWET**」の日本で唯一の受入れ機関(プロジェクトWETジャパン)



驚異の旅
水の分子となってサイコロを転がし、地球上の水循環を体験します。

水難事故の防止

◆全国の河川に関わる水難事故に関するデータを独自に収集し、その結果を「全国の水難事故マップ」として当財団ウェブサイト公表するとともに、収集したデータに基づき水難事故発生の原因などについて分析しており、水難事故防止対策ならびに安全な河川利用に関する知見を蓄積

子どもの水辺サポートセンター

「子どもの水辺サポートセンター」は、国土交通省、文部科学省、環境省の連携により平成11年度より進められている『子どもの水辺再発見プロジェクト』の推進・支援組織として平成14年7月に財団法人河川環境管理財団(当時)内に設置されました。

(平成14年5月30日付け通知 国河環第23号、14文科ス第116号、環政経第162号)

当センターは、情報提供、各種講習会の開催、ライフジャケット等の資材の貸し出し、学習教材の作成・提供など、各省庁・団体等と連携し、水辺での体験活動・環境学習を主体とした「河川教育」がより広がるよう調査・研究や活動支援を行っています。



子どもの水辺サポートセンター Center for Supporting Children's Waterside Activities

① 『子どもの水辺再発見プロジェクト』の普及・推進

『子どもの水辺再発見プロジェクト』に基づき「子どもの水辺」登録受付・相談、及び本プロジェクトの普及・推進業務を行っています。



③ 体験活動の支援

ライフジャケットやスローロープ、ヘルメット等、子どもたちの水辺体験活動に必要な様々な資機材を低廉な費用で貸出しています。



ライフジャケット (子供用)

ライフジャケット (大人用)

スローロープ(救助用)



ヘルメット



Eボート(10人乗りの大型ゴムボート)

⑥ 人材育成の支援

Project WET プロジェクトWET 体験型水教育プログラム

プロジェクトWET (Water Education for Teachers) は、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め責任感を促すことを目標として開発されたアメリカ生まれの教育プログラムです。

当センターは、子どもたちが水について楽しく学び・考える教育プログラムであるプロジェクトWETの普及を行っており、当センターが育成したファシリテーターを通して学校の先生や団体・企業等の皆様を対象に、指導者講習会(エドゥケーター講習会)を各地で開催しています。



<http://www.project-wet.jp/>

② 水辺の活動に関する各種情報の提供

当財団ウェブサイトやメールマガジンなどにより、河川教育活動に役立つ情報を収集・整理し、発信しています。

●子どもの水辺サポートセンターメールマガジン登録サイト
<http://www.mizube-support-center.org/form/maillmagazine.html>

④ 教材等の作成・提供

水教育ガイドラインやプログラム・カリキュラムの事例集、子どもたちの学習の手引きとなる様々な教材等を作成・提供しています。



⑤ 講習会・研修会の開催

川や水辺を活かした活動を行っている学校や団体等の取り組み事例を毎年紹介し、教育関係者、市民団体、行政関係者、企業など多様な主体の方々から情報共有・意見交換する場を開催しています。



川に学ぶ全国事例発表会

⑦ 河川教育学習、水難事故防止等に関する調査研究

学校等の河川を活用した環境学習・体験活動の実施状況やその効果の定量化に関する研究、河川や防災学習の教材等の作成に関する研究、全国の水辺で発生している水難事故事例の収集、事故原因等の分析、事故防止に向けた調査研究等を行っています。

河川教育・体験活動の実態調査ととも
に教育効果や普及等
に関する研究

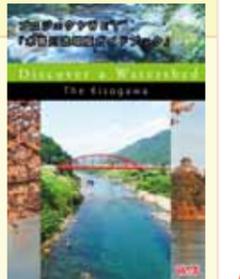
学校教育に適合した
河川や防災学習の教
材等の作成・研究

川や水辺の安全利用
・水難事故防止に関
する調査研究

近年の主な自主研究

●プロジェクトWET「木曾川流域版ガイドブック」作成

子どもたちに、流域の自然、河川環境、治水、利水、歴史や文化および観光への関心・理解を深め、様々な水問題に対し、自ら行動する力を身につけさせるために、水に関する教育プログラム「プロジェクトWET」の木曾川流域版アクティビティの開発及びガイドブックの作成を行った。





都市部における貴重なオープンスペースである河川敷を整備し、人々の河川利用の促進と健康増進を図るため河川健康公園を管理・運営しています。

4つの事業

■ 住民の健康増進事業

レクリエーション施設として、あらゆる年齢層や用途に応じて楽しく安心して利用頂ける野球場やテニスコート、ゴルフ場や自由広場、パークゴルフ場など、多様な施設を運営しています。



■ 洪水時などの防災対策事業

河川敷の占有者は洪水時に、他者に損害や危険が及ばないように速やかな施設撤去が求められており、当財団では、防災対策に熟知した職員により、迅速で的確な撤去を行っています。また、自主的な取り組みとして、公開施設撤去訓練を実施し、施設撤去の重要性を理解頂く機会を設けています。



■ 河川敷地の適正な管理事業

河川管理者と協議し、健康公園に隣接する河川堤防の除草を実施しています。河川管理者が堤防点検を実施しやすい環境維持、ご来園者や近隣の方々にも配慮した環境をつくり、占用地内においても適切な植生管理と河川環境保全に努め、皆様の満足度を高める維持管理を実現します。また、自然観察などの学習の場としても活用できる生態系に配慮したゾーン【リバービオコリドー】を整備しています。



■ 地域社会への貢献事業

1) 近隣の小学校・幼稚園・保育園の野外活動への協力

近隣に住む児童が野外活動を行う場合、野球場等を無料開放し、子供たちが自然と触れ合う機会を多く持てるよう支援しています。



2) 多摩川振興事業への協力

地元川崎市の多摩川振興施策に協力し、多摩川の川崎市全域を対象に、広場の管理棟、休憩施設、トイレを整備しています。

当財団は、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行う団体として、河川管理者から【河川協力団体】に指定されました。 指定を受けた河川：多摩川、庄内川、豊平川

多摩川健康公園(川崎)



開放感あふれるゴルフコースと、誰でも利用できる交流・休憩施設があります。

■ 川崎リバーサイドパーク

ロング1ホール、ミドル5ホール、ショート3ホールの合計9ホール、2,322ヤード、PAR34のゴルフ場です。多摩川に沿って広がるコースは、ドライバーも使用可能なので(一部ホールを除く)都会にいなから河川敷ならではの開放感を感じてプレーできます。アクセスもよくリーズナブルな料金でお楽しみ頂けるゴルフコースです。



■ 多摩川交流センター

誰でも自由に交流・休憩できるスペースです。施設内には、川崎リバーサイドカフェや水洗トイレ、シャワー(有料)が完備されており、どなたでも自由にご利用頂けます。屋上からは多摩川を眺めることができ、河川敷ならではの開放感を感じていただけます。



http://www.kasen.or.jp/c_park/park02c.html

雁来健康公園(札幌)



ショートコース、ゴルフ練習場、テニスコート、野球場、ゲートボール場(無料)、広場など、多様な施設があります。

■ ショートコース

本格的なショートコースです。9ホール(全ホールともパー3)パター練習グリーン(施設利用者無料、アプローチ・バンカー練習場あり)

■ ゴルフ練習場

ゴルフコースにいるような開放感 照明施設完備で夜8時まで営業しているので仕事帰りでもお楽しみいただけます。

■ 野球場・テニスコート

野球場2面とテニスコート6面が整備されており、仲間や家族で楽しめる施設です。

■ ゲートボール場・広場

保育園や小学校の遠足など野外活動の場として無料で提供いたします。

http://www.kasen.or.jp/c_park/park02a.html



庄内川・幸心健康公園(名古屋)



広場やソフトボール場(無料)だけで1万㎡を有し、ゴルフ練習場は全長350ヤード。広々空間で身も心もほぐれるひと時をお過ごしください。

■ ゴルフ練習場

全長350ヤードの打ちっぱなしです。身近な場所にありながら開放感あふれるゴルフ練習場です。

■ ソフトボール場

ソフトボール場1面を整備しており、無料で貸出を行っています。

■ 公園広場

開園時間内に、自由にご利用いただけます。事前に受付ハウスへ申込みいただければ、児童遊具を無料貸出しいたします。

■ パークゴルフ場(整備中)

子供からお年寄りの方までの三世代が気軽に楽しめるパークゴルフ施設です。

http://www.kasen.or.jp/c_park/park02d.html



扇河川健康公園(東京)



スカイツリーを眺めながらのゴルフの打ちっぱなしや野球、テニス、多目的の広場など、河川敷ならではの広々とした開放感は格別です。

■ 扇ゴルフ練習場

32出打席、300ヤードの打ちっぱなしです。広大な荒川の河川敷で爽快に練習できます。

■ 軟式野球場・テニスコート

軟式野球場1面とオムニコート2面を整備しています。広々のびのび思いっきりプレイができます。

■ パークゴルフ場

2コース全18ホールを整備した都内唯一の本格的なパークゴルフ場で、子供からお年寄りの方まで、ビギナーから上級者の方まで楽しめる施設です。荒川の緑の中で気軽に運動をしながらリフレッシュできます。(平成26年10月オープン)

http://www.kasen.or.jp/c_park/park02b.html



当財団の研究成果は、必要に応じ書籍として発刊・出版し、広く一般社会への還元を努めることとしております。書籍のお求めは、各出版社・書店にお問い合わせ下さい。出版社が当財団となっているものについては当財団企画部までお問い合わせ下さい。



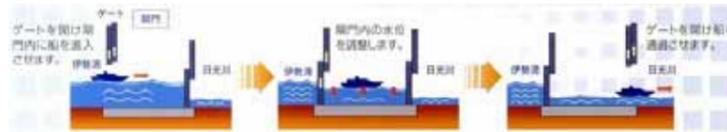
国等の河川管理者が設置する河川管理施設の維持管理を支援する業務を受託し、安全で災害に強い川・豊かで美しい川づくりに貢献しています。

せんだうひらこうもん 船頭平閘門 平成12年5月25日 重要文化財に指定

木曾川では、国の重要文化財である船頭平閘門の確実な操作・管理・点検及び隣接する船頭平公園内の樹木管理・施設管理を行い、河川利用者の安全で快適な利用の確保を行っています。

閘門とは？

隣接する2つの河川の水位が異なる場合、船は河口を回らなくては隣の川に行くことができません。このような場合に、船が河口を回らずに河川を渡るような水位を調節する施設を閘門といいます。



出典：愛知県HP <http://www.pref.aichi.jp/0000032918.html>

船頭平閘門

船頭平閘門は、明治改修による木曾三川分流工事の際、木曾川と長良川を結ぶ舟運路の建設にあたって、両河川の水位に高低差があったため計画され、1899(明治32)年に着工、1902(明治35)年に完成しました。複閘式閘門(門扉が二重になっており2つの川の水位が逆転した場合でも使用できる閘門)としては我が国最初期のものであり、建設から1世紀余を経た現在においてもよくその機能を果たしていることから、「技術的に優秀なもの」および「歴史的価値の高いもの」として、2000年(平成12年)に重要文化財に指定されました。このほか、河川関係では、1880(明治13)年竣工の北上川・石井閘門、1907(明治40)年に竣工の淀川旧分流施設(毛馬洗堰、毛馬第一閘門)、1921(大正10年)竣工の利根川・横利根閘門が重要文化財に指定されています。



周辺拡大図
出典：木曾川下流河川事務所HP <http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/sisetu/bunko-detail-2.html>

総合土砂管理計画 -流砂系の健全化に向けて-



編著 山本 晃一
発行 技報堂出版
価格 4,400円(税抜)
発刊 平成26年9月12日

総合土砂管理思想の変遷、総合土砂管理に関わる概念(理論)の提示、流砂系における土砂動態の実態と評価手法、土砂の制御技術、土砂の量的・質的不確実性の計画論への反映方法、総合土砂管理計画の基本構想と計画案を取り扱っている。

森林の窒素飽和と流域管理



編著 古米 弘明
川上 智規
酒井 憲司
発行 技報堂出版
価格 1,600円(税抜)
発刊 平成24年3月15日

河川・湖沼等の水域に供給される大気降下物由来の窒素化合物は、酸性雨の原因物質であると共に、森林域の重要な栄養物質であり、その過剰は土壌の酸性化と陸水の富栄養化をもたらす。本書では、窒素の捉え方、流域の窒素管理の在り方について、様々な視点でわかりやすく解説している。

ケイ酸 その由来と行方



編著 古米 弘明
山本 晃一
佐藤 和明
発行 技報堂出版
価格 1,900円(税抜)
発刊 平成24年2月20日

「河川におけるケイ酸など無機溶存物質の流出機構に関する研究会」の成果を、わかりやすい読み物風にしながらも、専門的な見聞もバランスよく整理したもの。第三の栄養塩類としてケイ酸を位置付けて、ケイ酸に関する基礎知識やモニタリングデータ、さらには関連の最新研究成果を取りまとめた。

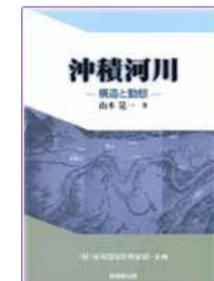
川を活かした体験型学習プログラム



編著 河川環境管理財団
監修 体験型プログラムの
開発に関する研究会
発行 東京書籍
価格 2,200円(税抜)
発刊 平成23年2月1日

全国各地で川を活用した体験的な学習を実践された先生方から提供された事例を実践例編で紹介し、プログラム編では学習指導要領をふまえつつ、項目別に個別プログラムの学習内容を整理してまとめ掲載した。

沖積平野 -構造と動態-



著者 山本 晃一
発行 技報堂出版
価格 6,400円(税抜)
発刊 平成22年1月25日

沖積層を流れる河川の構造特性とその動態について説明したものである。第 部で移動床の水理について記したうえで、第 部で中規模河川スケール、第 部で大規模河川スケールの構造を規定する要因と発達プロセスを説明し、第 部では事例をあげ、その理論の適応性を検証した。

電子書籍・プリントオンデマンド(POD)を始めました

この度、都合により書店にて販売されていなかった下記の二冊が、お手軽に購入できるようになりました。ご希望の方はAmazon(kindle)、楽天(kobo)、iTunes(iBookstore)等で電子書籍をお求めできます。また、プリントオンデマンドは、Amazon(プリント・オン・デマンドプログラム)、三省堂(三省堂オンデマンド)が利用できます。

樹林帯の手引き



編著 財団法人
河川環境管理財団
監修 国土交通省河川局治水課
価格 電子書籍:3,600円(税抜)
POD :4,500円(税抜)
発刊 平成22年1月25日

木材活用工夫ガイドブック(案)



編著 財団法人
河川環境管理財団
価格 電子書籍:4,640円(税抜)
POD :5,800円(税抜)
発刊 平成22年1月25日

表彰業務(平成20年度～26年度)

局長表彰

	表彰名	対象業務名(担当者)	発注元
平成25年度	関東地方整備局長 優良業務表彰	H25烏・神流川事業計画検討業務 (山田政雄・川畑理恵・中嶋大次郎) (株)建設技術研究所(代表社)とのJV	関東地方整備局 高崎河川国道事務所
平成24年度	関東地方整備局長 優良業務・優秀技術者表彰	H24河川維持管理DBシステム検討業務 (河崎和明・吉田高樹・原俊彦・鈴木克尚) 日本工営(株)八千代エンジニアリング(株)とのJV	関東地方整備局 河川部
平成22年度	関東地方整備局長 優良業務・優秀技術者表彰	鬼怒川・小貝川河道環境総合管理計画検討業務 (吉田高樹・鈴木克尚・山本嘉昭・柴田邦善)	関東地方整備局 下館河川事務所
平成20年度	東北地方整備局長 優良業務表彰	小川原湖水質監視体制検討業務 (酒井憲司・久保田一・大島巖・神岡誠司)	東北地方整備局 高瀬川河川事務所
	関東地方整備局長 優良業務・優秀技術者表彰	鬼怒川・小貝川河道環境総合管理計画検討業務 (戸谷英雄・吉田高樹・郡司篤・鈴木克尚)	関東地方整備局 下館河川事務所

事務所長表彰

	表彰名	対象業務名(担当者)	発注元
平成26年度	関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	H26渡良瀬川堤防植生管理計画検討業務 (山田政雄・山本嘉昭・大澤寛之・塩見真矢)	関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所
	近畿地方整備局 淀川河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	淀川生態環境解析調査業務 (中西史尚・今井範雄・宝藤勝彦・井上勇樹)	近畿地方整備局 淀川河川事務所
	近畿地方整備局 近畿技術事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	堤防植生抑制調査等業務 (宝藤勝彦・塩見真矢・大澤寛之・小川愛子)	近畿地方整備局 近畿技術事務所
平成25年度	九州地方整備局 菊池川河川事務所 優良業務表彰	菊池川二極化対策調査検討業務 (山本晃一・松本大毅) (株)東京建設コンサルタン(代表社)とのJV	九州地方整備局 菊池川河川事務所
	関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	H25霞ヶ浦湖岸植生検討業務 (吉田高樹・山本嘉昭・大澤寛之・佐藤遥)	関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所
平成24年度	関東地方整備局 下館河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	H25鬼怒川河道管理検討業務 (吉田高樹・鈴木克尚・川畑理恵・松本大毅) (株)建設技術研究所とのJV	関東地方整備局 下館河川事務所
	関東地方整備局 常陸河川国道事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	H24久慈川維持管理実務マニュアル検討業務 (鈴木克尚・原口幸雄・石原宏二・山崎幸司)	関東地方整備局 常陸河川国道事務所
	関東地方整備局 利根川下流河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	H24利根川下流部自然再生計画検討業務 (戸谷英雄・河崎和明・山田政雄・鈴木克尚) (株)エコーとのJV	関東地方整備局 利根川下流河川事務所
	近畿地方整備局 淀川河川事務所長 優良業務・優秀技術者表彰	淀川生態環境解析調査業務 (中西史尚・宝藤勝彦・本山清崇・中西章)	近畿地方整備局 淀川河川事務所
	九州地方整備局 大分川河川事務所長 優良業務表彰	平成24年度大野川河床変動調査検討業務 (山本晃一・吉田高樹・鈴木克尚) (株)東京建設コンサルタン(代表社)とのJV	九州地方整備局 大分川河川事務所
平成20年度 平成23年度	7件(関東：利根川上流、京浜、荒川下流、霞ヶ浦、中国：出雲)		

下線を付した者が優秀技術者表彰を受賞した管理技術者

平成26・25年度主要表彰業務の内容

『H26渡良瀬川堤防植生管理計画検討業務』

発注機関：関東地方整備局渡良瀬川河川事務所
担当技術者：山田政雄 / 山本嘉昭 / 大澤寛之 / 塩見真矢



【業務概要】

河川堤防の管理で起きている外来植物の侵入繁茂等の影響による河川巡視・堤防点検への支障や堤防機能の弱体化の問題を解決するため、近年の農業取締法改正により安全で効果のある植物成長調整剤や芝焼き等に注目した現地実証実験を行い、新たな視点での効率的・効果的な堤防植生管理手法を提案した。検討は、専門家による検討会及び地域関係者による懇談会を通じて行い、渡良瀬川堤防植生維持管理計画の立案や外部への情報発信用研究論文の作成等を行った。また、昨今の堤防養生工における課題解決に向けた堤防養生工のあり方の検討や、改良芝の維持管理方法検討のための植生管理試験、堤防植生別の根系強度等の測定による基礎情報収集を行った。

『菊池川二極化対策調査検討業務』

発注機関：九州地方整備局菊池川河川事務所
担当技術者：山本晃一 / 松本大毅
(株)東京建設コンサルタン(代表社)とのJV



【業務概要】

菊池川では過去に河床の二極化(堆積・洗掘)が進行し、構造物被害等が発生したことから、種々の対策が行われてきた。本業務では、これらの対策実績や二極化メカニズムをもとに、二極化に有効な対策手法およびモニタリング、維持管理の考え方について検討し、これらの検討成果について「二極化抑制対策手法(案)」として、とりまとめたものである。対策手法検討では、一般的に考えられる対策工を抽出し平面二次元河床変動解析により効果を検証した上で、対策選定の考え方を整理した。モニタリング・維持管理については、効果的・効率的な維持管理を行うため、発動基準設定の考え方をまとめ、モニタリング項目や頻度等について検討した。

『H25霞ヶ浦湖岸植生検討業務』

発注機関：関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所
担当技術者：吉田高樹 / 山本嘉昭 / 大澤寛之 / 佐藤遥



【業務概要】

本業務は、霞ヶ浦の湖岸植生帯の緊急保全対策に関し、対策工法の検討をはじめ、水文・水質・植生等のモニタリング調査結果を総合的にとりまとめ、緊急保全対策工に関する評価及び課題等を検討した。
将来に向けた展開方策を含んだ「評価報告書(仮称)」の作成にあたっては、学識者からなる「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」に諮り、その意見を取りまとめ反映させると共に、湖岸植生帯事業の目的や内容等に関し、一般住民にわかりやすい広報資料を提案・作成を行った。

『淀川生態環境解析調査業務』

発注機関：近畿地方整備局淀川河川事務所
担当技術者：中西史尚 / 今井範雄 / 宝藤勝彦 / 井上勇樹



【業務概要】

本業務は、イタセンバラ保全再生計画に向けて、種の生息実態を正確に調査把握し、多様な生態系を有するワンド、タマリの保全再生の自然再生計画について検討した。また、鶺鴒ヨシ原保全対策として、高水敷切上げ対策の評価を行い、条件の整理をするとともに、配水実験をヨシ群落拡大の観点からまとめた。魚ののぼりやすい川づくりに関する事業について、桂川3号井堰を中心とした魚道改善効果の評価と課題を整理し、とりまとめを行い、自然再生計画の更新を行った。また、専門家の指導助言を得ながら成果をとりまとめた。更に、水生生物調査を通して沿川住民の水質への関心を深めるための調査会の運営ととりまとめを行った。

『堤防植生抑制調査等業務』

発注機関：近畿地方整備局近畿技術事務所
担当技術者：宝藤勝彦 / 塩見真矢 / 大澤寛之 / 小川愛子



【業務概要】

河川堤防植生について、除草回数の減少に伴う高茎外来草本への遷移や繁茂等に起因する維持管理上の問題に対し、河川堤防植生に求められる機能を保持し、除草費用の縮減が見込まれる適切かつ効率的な対策を検討し、手引きとして対策の導入方法をとりまとめた。対策は、改良芝や地被植物等の低草丈草種への転換及び特定防除資材(重曹)による生長抑制について、試験施工の経年的な堤防植生調査から得た知見を反映して工法等の提案を行った。また、手引きは、河川管理者へのヒアリングを行い、河川巡視や堤防点検等の結果から対策を選定する手順を示し、現場で積極的に利用しやすいものとした。

『H25鬼怒川河道管理検討業務』

発注機関：関東地方整備局下館河川事務所
担当技術者：吉田高樹 / 鈴木克尚 / 川畑理恵 / 松本大毅
(株)建設技術研究所(代表社)とのJV



【業務概要】

本業務は、鬼怒川河道管理の課題となる下流部の河床低下や中流部の河岸侵食に対応していくため、適切な河道管理方策の立案に向け、河床低下の要因精査、河床低下に係る対応方針、中流部水衝部対策等の検討を行った。

『H25烏・神流川事業計画検討業務』

発注機関：関東地方整備局高崎河川国道事務所
担当技術者：山田政雄 / 川畑理恵 / 中嶋大次郎
(株)建設技術研究所とのJV



【業務概要】

本業務は、河道掘削や調節地整備を伴う烏・神流川の河川整備計画に基づき、今後の事業展開検討、段階的な整備効果算定を行い、事業プログラム作成を行った。また、烏川における河道特性を踏まえた河道掘削方法、及び掘削計画に基づく配土計画・運搬計画・砂利採取計画について検討を行った。

下線を付した者が優秀技術者表彰を受賞した管理技術者

平成26年度の主な業務受託実績一覧

国家資格等有資格技術者数

分野	業務名	委託者
河川計画	H26久慈川河道計画検討業務 平成26年度霞ヶ浦環境等計画検討業務	関東・常陸河川国道 関東・霞ヶ浦
懸案事項ソリューション支援	H26利根川上流河川管理改善策検討業務	関東・利根川上流
維持管理DB関連	河川管理施設DBプラットフォーム(DBの利用・活用)検討業務 H26河川維持管理DBシステム全国標準化検討業務 H26河川維持管理データベース運用検討業務	国土交通省 全国連記(関東地整) 関東・関東技術
維持管理系	河川維持管理技術水準向上方策検討業務 河川維持管理施設の維持管理・点検基準検討業務 平成26年度河川維持管理計画点検等検討業務	国土交通省 国土交通省 関東・京浜河川
堤防点検等点検評価	H26渡良瀬川堤防等点検評価業務 平成26年度多摩川堤防等点検評価業務 平成26年度 庄内川河川堤防等点検評価業務	関東・渡良瀬川 関東・京浜河川 中部・庄内川
河道管理	H26河道管理検討業務 九頭竜川樹木状況とりまとめ業務 菊池川二極化対策調査検討業務	関東・下館河川 近畿・福井河川国道 九州・菊池川
堤防植生	H26渡良瀬川堤防植生管理計画検討業務 堤防植生抑制調査等業務	関東・渡良瀬川 近畿・近畿技術
環境系	平成26年度 全国水質現況評価検討業務 H26霞ヶ浦湖沼環境等検討業務 H26霞ヶ浦湖岸植生帯救急保全対策評価検討業務 H26利根川上流管内(稲戸井調節池)環境調査検討業務 H26利根川下流自然再生検討業務 平成25年度多摩川環境整備検討業務 淀川生態環境解析調査検討業務 猪名川流域環境調査とりまとめ業務	全国連記(中部地整) 関東・霞ヶ浦 関東・霞ヶ浦 関東・利根川上流 関東・利根川下流 関東・京浜河川 近畿・淀川 近畿・猪名川
その他	H26年度 木曾三川歴史的河川施設調査業務	中部・木曾川下流
河川教育	河川教育を推進するための広報検討業務 阿賀川流域等における地域との連携方策検討業務 淀川地域連携推進調査業務 宇治川・木津川・桂川住民連携協働調査業務 猪名川事業推進地域連携調査業務	国土交通省 北陸・阿賀川 近畿・淀川 近畿・淀川 近畿・猪名川

有資格者数

資格名等		保有者数
河川点検士		17 名*
技術士	総合技術監理部門	1 名
	建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)	7 名
	建設部門(建設環境)	2 名
RCCM (Registered Civil Engineering Consulting Engineer)	建設部門(都市地方計画)	1 名
	河川、砂防及び海岸・海洋部門	1 名
	都市計画及び地方計画部門	1 名
博士	工学博士	1 名
土木学会認定土木技術者	建設環境	1 名
	上級土木技術者(河川・流域)	2 名
	上級土木技術者(マネジメント)	2 名
	上級土木技術者(防災)	1 名
	一級土木技術者(流域・都市)	1 名
建築士	一級土木技術者(河川・流域)	2 名
	一級建築士	1 名
土木施工管理技士	二級建築士	1 名
環境計量士	一級土木施工管理技士	10 名
情報処理技術者	環境計量士(騒音・振動関係)	1 名
公共工事品質確保技術者	種情報処理技術者	1 名
労働安全コンサルタント	品確技術者()	6 名
気象予報士		1 名
測量士		1 名
一級造園施工管理技士		3 名
		1 名

*申請中含む

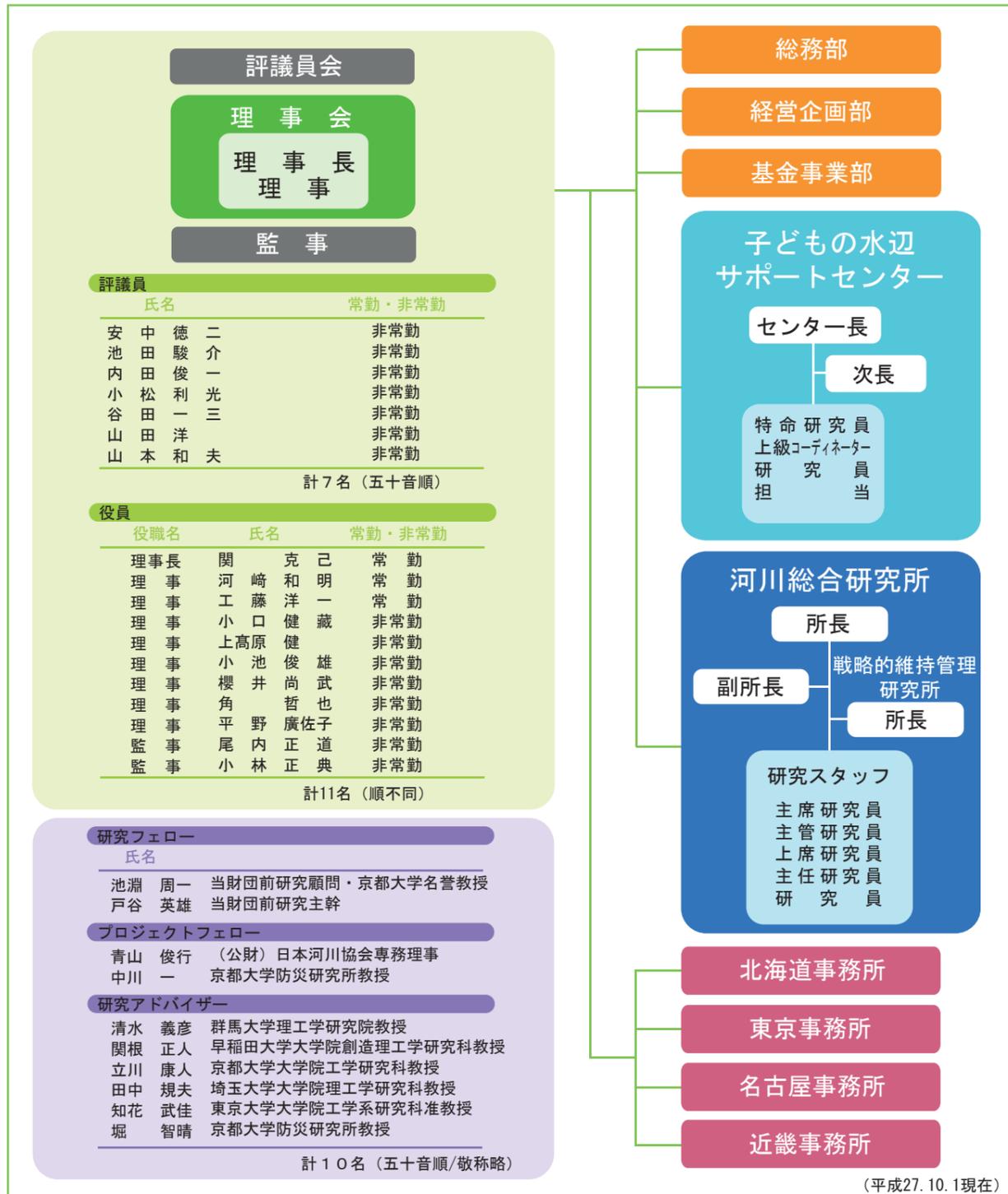
河川教育に係る有資格者数

資格名等		保有者数
プロジェクトWET指導者資格	ファシリテーター	8 名
	エデュケーター	16 名
全国体験活動指導者認定委員会 (JBQEAL) の自然体験活動に関する認定資格	主任講師(講習管理者)	3 名
	自然体験活動リーダー (NEALリーダー)	11 名
NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 (RAC) の川に学ぶ体験活動指導者資格	トレーナー	3 名
	リーダー	20 名
NPO法人自然体験活動協議会 (CONE)の 自然体験活動指導者資格	トレーナー	3 名
	リーダー	3 名
レスキュー3のスイフトウォーターレスキュー (米国の急流救助活動技術)	テクニシャンレベル1クラス (SRT-1)	4 名
	ファーストレスポonderクラス (SFR)	7 名

(平成27年10月1日現在)

河川財団の組織

河川の整備・保全・利用に関して豊かな経験・技術を持った人材が財団を支えています。



交通アクセス

河川財団へのアクセス

本部

所在地

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11番9号
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F)

連絡先

総務部 TEL: 03-5847-8301/ FAX: 03-5847-8308
経営企画部 TEL: 03-5847-8302/ FAX: 03-5847-8308
基金事業部 TEL: 03-5847-8303/ FAX: 03-5847-8309
E-mail: kikin-toi@kasen.or.jp

子どもの水辺サポートセンター TEL: 03-5847-8307/ FAX: 03-5847-8314
E-mail: msc@mizube-support-center.org

河川総合研究所 TEL: 03-5847-8304/ FAX: 03-5847-8309
E-mail: info@kasen.or.jp

東京事務所 TEL: 03-5847-8306/ FAX: 03-5847-8310



北海道事務所

所在地

〒060-0061
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル2F)

連絡先

TEL: 011-261-7951/ FAX: 011-261-7953
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp



名古屋事務所

所在地

〒463-0068
名古屋市守山区瀬古3丁目710

連絡先

TEL: 052-388-7891/ FAX: 052-388-7918
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp



近畿事務所

所在地

〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル13F)

連絡先

TEL: 06-6942-2310/ FAX: 06-6942-2118
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp

